



資産運用こぼれ話 「2000万円」問題で気づいてほしいこと

寄稿：岡本 和久



「2000万円」問題がこれだけ多くのメディアなどで取り上げられたのは、とても良いことだと思います。報告書自体、非常によくできたものだと私は高く評価しています。少し残念に思うのは、政府がこのレポートをなかったことにしようとしたこと、それからこのレポートが10年前に出ていればよかったのに・・・ということです。それでも生活者の間に「何かしなくては・・・」という意識が広く共有されるようになったのは良いことです。

大切なことは「将来の自分は今の自分が支える」ということです。これは言い換えれば、「今稼いでいる収入を全額、全部使っていると将来困ることになる」ということです。単純化した例を示します。

30歳から65歳まで36年資産形成を行い、66歳から101歳までをその資金で生活するとしましょう。仮に就業中の平均年収が100だとします。そのうちの50を今の生活に使い、50を将来のために引出に取っておくとします。そうすると、ずっと50の資金で一生生活することになりますが、現実には就業中の給料の半分で生活するのは、就業中は無論、リタイア後も非常に苦しいでしょう。つまり、100年人生をずっと金銭的に苦しい状態で生活することになります。これをシナリオ1とします。

私が考えた「サブロクのマジック・フォーミュラ」を紹介します。これは資産を年3.6%で複利運用すると、36年後には約3.6倍になるというものです。3.6%は大体、世界の実質GDPの長期的な成長率です。ですから、ほぼそれが株式の実質リターンに近くだろうと考えられます。36年というのは30歳から65歳までの運用期間です。1年ずつずらして考えれば65歳から101歳までずっと36年ずつ運用することになります。

シナリオ1では一生、苦しい生活をするようになります。では、どうしたらよいのか。結局、お金を増やす必要があるのです。ここで「サブロクのマジック・フォーミュラ」が登場します。仮に、就業中の収入のうち78を今の生活費に使い、22を将来のために毎年3.6%で複利運用したとします。



長期投資仲間通信「インベストライフ」

36年後に22はおよそ $(22 \times 3.6 \div 2)$ 79になります。そうすれば退職後も就業中とほぼ同じ生活費が確保できます。これがシナリオ2です。

日本はリスク資産への投資が非常に少ないことが知られています。つまり、運用なしのシナリオ1で、就業中も退職後も苦しい生活になるのです。一方、アメリカでは資産の多くの部分が投資に回っています。その結果、シナリオ2のように、それなりの生活を生涯おくれるのです。しかも、この間、より大きな購買力を持つので、消費により、経済成長にも寄与することになります。「2000万円」問題を解決するには今の収入の一部を将来のために、単に貯めるのではなく、増やすことが必要なのです。今回の騒ぎがきっかけになり、生活者に投資の意味が本当に理解されることを願ってやみません。

(この原稿は投資手帖 2019年8月号に寄稿したものに加筆修正を加えたものです)